

DMON 製品紹介



Jan.2023

目次

1. はじめに

2. DMON と周辺機器

3. 配線について

3.1 AC

3.2 PCモニターとキーボード

3.3 DMON の出力(モニターシステムへの配線)

3.4 DMON の入力(ミキサー/DAWからの配線)

4. GUI について

2種類のGUI

5. SPEAKER SETS について

6. Source について

7. 3Dマイク について

8. Preset への保存

9. La Remote について

10. 電源を落とす

1. はじめに

DMON は、スタジオ モニターの最適化を行う **Trinnov** 社独自の **Optimizer** 機能を持ったモニターコントローラーです。

- **DMON** は、標準で **6台までのスピーカーの最適化**を行う機能を備えています。
- アップグレード オプションで **2chずつ** 最適化できるスピーカー数を加えていくことができます。
- オプションを複数追加することで、**最大18チャンネル*** の最適化が可能になります (48kHz以上では12チャンネルまで)。
- スピーカーの切り替えやソースの切り替え、モニター ボリューム コントロールをはじめ、演奏者への Cue 送りやトークバック / リッスンバック 機能も備えています。

このマニュアルでは、**DMON** の特徴をご紹介します。

DMON の詳細につきましては、別途 **User Manual** (和文)をご用意しております。
必要な場合は、以下のリンクよりダウンロードしてご利用ください。

なお、ダウンロードには次の ユーザーネーム と パスワード が必要となります。

DMON ユーザーマニュアル ダウンロードリンク	
ダウンロードリンク	http://www.dspj.co.jp/dl/trinnov/DMon_Japanese_Manual_V4.2.2.pdf 
ユーザーネーム	trinnovuser
パスワード	laremote

2. DMON と周辺機器

DMON はオプションとして様々な周辺機器が用意されています。

1	DMON本体	
2	ACケーブル	
3	3Dマイク+専用ケーブル * option	
3	3Dマイク用 DB25-XLR11C x4 ブレイクアウト ケーブル * option	
4	タッチパッド付きキーボード * option	
5	MPIOケーブル * option	
6	La Remote コントローラー * option	

* option の製品は標準で付属しませんので、本体とは別途に注文する必要があります。

3. 配線について



3.1 AC

- 付属のACケーブルは、ユニット背面(上図1)に接続します。AC電源電圧はユニット内部の切り替えスイッチにより、100V～240Vに対応しています。
- ユニット背面(上図2)の電源スイッチは、常にONの位置にしておいてください。
- **DMON** は、通常のオーディオ機器と同様、フロントパネルの電源スイッチ(A)を ON の位置にすると電源が入り起動シーケンスが始まります。

3.2 PCモニターとキーボード

- PCモニターを 背面3からVGAまたはHDMIで接続してください。これは機器の設置時にのみ必要です。
- キーボードとマウスを **B** または **4** にUSBで接続してください。
- スタジオのネットワーク(LAN)に **5** から RJ45(LANケーブル::CAT5e以上)で接続してください。

3.3 DMON の出力(モニターシステムへの配線)

※ オーディオ入出力に関するケーブルは付属していませんので、必要によって **Tascam** フォーマットのブレイクアウトケーブル をご用意ください。

- アナログのモニターシステムへは、背面パネル **9** のXLRから配線します。
- デジタル(AES3)でモニターシステムを使用している場合は、**6** または **7** から **Tascam** フォーマットのブレイクアウトケーブルを使用して配線してください。
- MPIOケーブルは **12** に配線します。このケーブルには **GPIO** や ヘッドフォン などを接続します(詳しくは [User Manual](#)をご覧ください。)

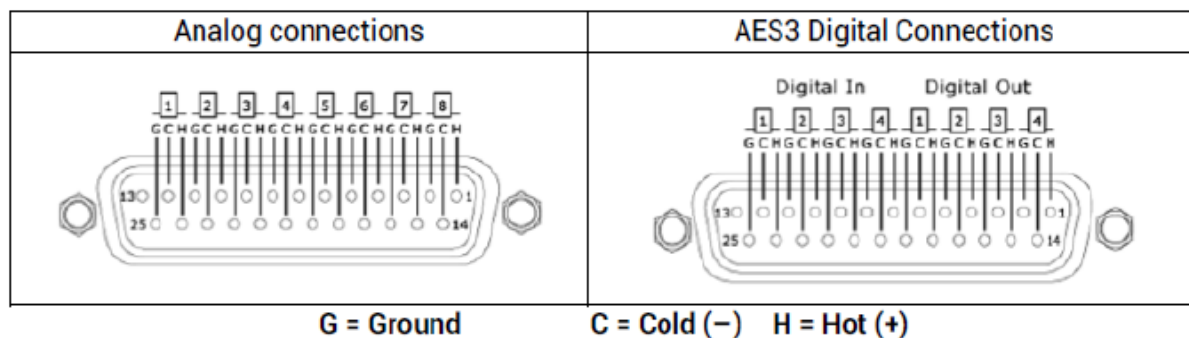
3.4 DMON の入力(ミキサー/DAWからの配線)

※ オーディオ入出力に関するケーブルは付属していませんので、必要によって Tascam フォーマットのブレイクアウトケーブル をご用意ください。

- 入力信号がアナログの場合は、背面パネル **8** に Tascam フォーマットの DB25 アナログ入力ケーブルを使用して配線してください。
- 入力信号がデジタル(AES3)の場合は、**6** または **7** から Tascam フォーマットのブレイクアウトケーブルを使用して配線してください。
- 3Dマイクは、マイクに付属の専用ケーブルからブレイクアウトケーブルの **XLR #1/2/3/4** に接続してアナログ入力 DB25 を使用して **8** に接続します。

注意: Tascam フォーマットの DB25 について

Trinnovプロセッサが装備しているオーディオ入出力用 DB25 は、アナログ入出力、AES入出力ともに Tascam フォーマットのピン配列に準拠しています(止めネジはインチ ピッチです)。



4. GUI について

DMON は、全ての操作をネットワーク上の PC またはタブレットの **Web** ブラウザで行います。そのため **DMON** は、既存のネットワークに接続しなければなりません。

ネットワークアクセスに必要な IP アドレスは、DMON に直接接続したモニターに表示される **OPCP** と呼ばれる GUI の Setup > Network タブで静的にも動的にも設定(確認)することができます。

2 種類の GUI

DMON には 2 種類の操作画面(GUI)があります。

OPCP (Optimizer & Processor Control Panel)

- **OPCP** は **DMON** の基本的な設定を行う GUI です。
- **Optimizer** を設定する場合にも使用します。
- Mac 用のアプリ **Trinnov App** から操作を行えます。
- 一旦ネットワークに接続されると、ネットワーク機器の Web GUI でも操作を行うことができます。

DMCP (DMon Control Panel)

- スタジオでの実際のオペレーションに使用する GUI で、常に Web ブラウザに GUI を表示させて操作を行います。
- Mac 用のアプリ **Trinnov App** から操作を行えます。

OPCP	DMCP
<p>本体に接続した PC モニターで見ることができるのは OPCP のみです。</p> 	<p>実際のオペレーションで使用する DMCP は、ネットワーク経由でネットワーク機器の Web ブラウザで見ることができます。</p> 

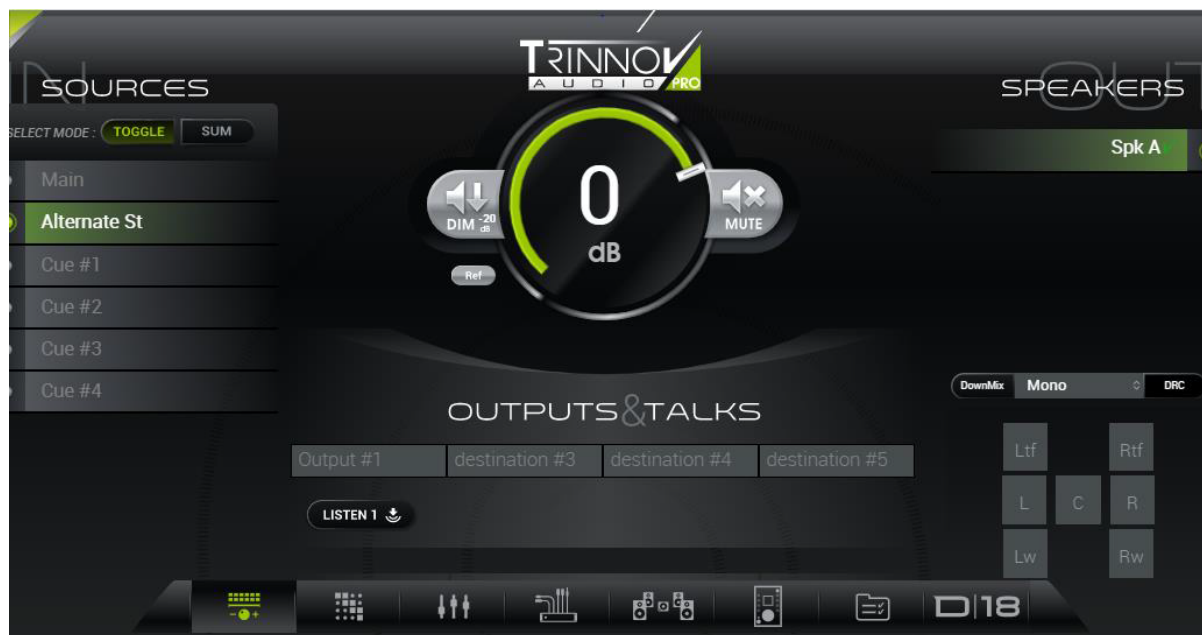
5. SPEAKER SETS について

DMON は、モデルナンバーの数のスピーカーを **Optimizer** により最適化することができます。

例：モデルナンバーが「DMON|6」の場合、最適化できるスピーカーの数は6台までです。

DMCP では、各スピーカーセットにカスタマイズした名前をつけ、ボリュームコントロール(**DIM** や **MUTE** を含む)やスピーカーセットの切り替えなどを行うことができます。

また、**Optimizer** で最適化していないスピーカーもコントロールを行うことができます。



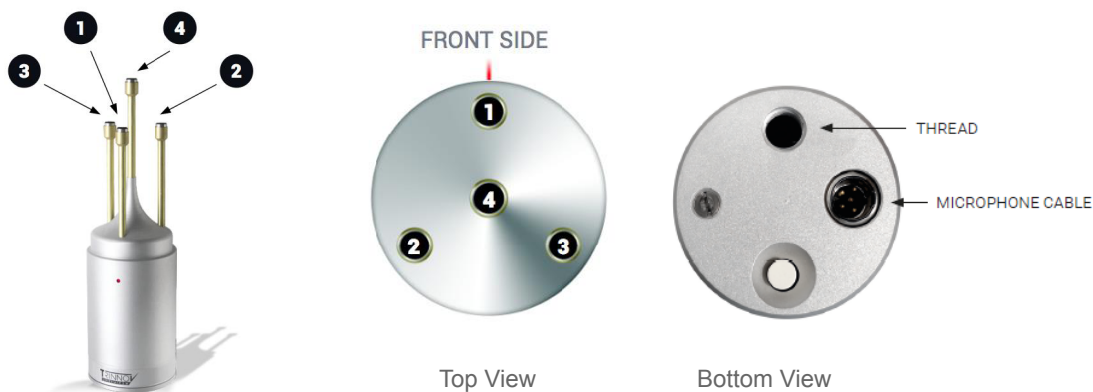
6. Source について

DMCP で、選択した Source を選択した Speaker Set でモニターすることができます。

Source は、切り替え または サミング を切り替えて使用することができます。

7. 3Dマイクについて

- Trinnov 3D マイクは 4つのカプセルを持つ特殊なマイクで、スピーカーの最適化時に必要です。
- 4つのカプセルには、番号がついています。**赤い電源LED**の真上にあるカプセルが**①**です。そこから反時計回りに**②, ③**と続き、中心の背が高いカプセルが**④**です。
- マイクはリスニングポイント付近に置きます。測定中に動かないよう、マイクスタンドに取り付けてください。**マイクが床に対して垂直**になるように設置してください。
- カプセルの**①をスピーカーの方向**に向けてください。この位置がセンターであることが理想的です。
- カプセルの**②, ③**からスピーカーへの距離が同じになるようにマイクのローテーションを合わせてください。
- カプセルの**④が耳の高さ**となるようにマイクスタンドの高さを合わせてください。
- 内部には、9V乾電池(006P)が入っています。
- マイクには専用ケーブル(Mini-XLR > XLR12 x4)とマイクの校正ファイルが入ったUSBメモリーが付属します。システムに付属のものではないマイクを使用する場合は、このファイルが必要です。



8. Preset への保存

Preset は、**DMCP** で設定した入出力の物理ポートの設定や **OPCP** の **Processor** タブでマニュアルで行った設定をそのまま保存して再現します。逆に これまで行ってきた設定を **Preset** に保存せずにユニットの電源を落とすと 再現されることはありません。

OPCP の **Preset** タブを開き、任意の場所 (1-29) の右側にある **Save** ボタンをクリックするだけで **Preset** として保存することができます。再現するには、**Preset** 名 をクリックするだけで読み出しが完了します。

電源を入れた直後に再現させたい **Preset** には、**Def** のラジオボックスにチェックを入れて、デフォルトに設定してください。

Optimizer データを含んだこの **Preset** は、間違って消去されないように鍵マークのラジオボックスにチェックを入れて ロックしてください。



Preset name:					
Bulltin preset	Clear	Save	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1: 2022/03/23 08:04:10	Clear	Save	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2: 2022/03/23 02:44:03	Clear	Save	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3: 2022/03/29 06:22:59	Clear	Save	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Preset 4 (empty)	Clear	Save	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Preset 5 (empty)	Clear	Save	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Preset 6 (empty)	Clear	Save	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

9. La Remote について

La Remote は、DMCP でユーザーが簡単にプログラムできる USB 接続のコントローラーです。

USB ポートに接続するだけで、外部電源無しで使用することができます。

一般的には 本体の USB ポートに接続して使用しますが、**Trinnov App** を実行している **Mac** の USB ポートに接続して使用することもできます。



プログラミング GUI

10. 電源を落とす

Trinnovプロセッサのアナログ出力にはリレーが装備されており、ユニットの電源のON/OFFによるノイズをモニターシステムに出すことはありません。

AES出力を利用する場合は外部DACでノイズが出る可能性があります。そのため、モニターシステムの電源を切った後にプロセッサの電源を切る通常のシーケンスを守ってください。

プロセッサの電源を落とす際は、通常のオーディオ機器同様 フロントパネルの電源スイッチ(A)を **OFF** の位置にしてください。

スイッチをOFFの位置にすると、プロセッサは直ちにデータを安全な記憶領域に退避させる終了シーケンスが開始されます。

この間、DMONに直接接続されている **OPCP** のモニター画面には “**Shutdown...**” とメッセージが表示されます。

注意: このメッセージが表示されている間は 配電盤などでACを落としたり、背面パネルの電源スイッチをOFFにしないで下さい。